

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401517		
法人名	有限会社 さくらの里		
事業所名	グループホームさくらの里		
所在地	長崎県南島原市深江町戊3135-15		
自己評価作成日	令和 2 年 7 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和2年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年8月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①美味しい食事の提供。 ②清潔な生活空間の提供。 ③1日に一度は入居者様に笑って頂く。
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「すべては、入居者様の為に」という理念に基づき、「美味しい食事の提供」「清潔な生活空間の提供」「きれいな生活空間」「1日に一度は入居者様に笑って頂く」を入居者支援の柱とし、管理者から職員へ日頃から伝えることでホーム全体での共有を図っている。特に食事については「美味しい食事」「楽しい食事」を基本とし、月2回のバイキング形式での食事や手づくり弁当を提供するなど、食事が入居者にとって楽しみとなるよう取り組んでいる。定期的に「さくらの里施設内研修」を開催し、フレイル(高齢者が筋力や活動が低下している状態)や不適切ケアのほか、最近では緩和ケアや新型コロナウイルス対策について開催するなど職員の見識を高めるとともに、専門知識の習得に努めている。コロナ禍において、ホーム内の清潔保持に留意し居室に生花を飾ることで入居者が少しでも明るく過ごせるよう環境づくりに取り組む職員の姿に、今後も入居者支援に期待が持てるホームと言える。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すべては、利用者様の為に」という理念を職員が、共有し、気持ちを傾けた介護をしている。	管理者の思いである「美味しい食事・きれいな生活空間・笑顔で過ごすこと」をホームの基本方針とし、日頃から職員へ直接伝えることでホーム全体での共有を図っている。職員は入居者を自分の親や家族と思い、敬いながら支援するよう努めている。家族来訪時には笑顔で挨拶を交わし、家族が訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症により、2月26日より面会制限をさせて頂いているので、地域の催し物にも参加できずにいます。	ホームは自治会に入会し、自治会清掃に管理者が参加したり、散歩の途中で挨拶を交わしたりするなど、地域住民と日常的に交流している。地域で開催する「買い物カフェ」では入居者が買い物を楽しむほか、小学校の運動会へ見学に行ったり中学生の職場体験を受け入れたりするなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を受ける事が、多く認知症の方の理解や支援の方法を、伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部委員様の意見を聞き、対策を話し合い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は民生委員・市職員、他施設職員、有識者として元議員等を構成メンバーとし、ホームの現状を伝えるとともに、メンバーからの意見等を運営に活かすよう取り組んでいる。現在、コロナ禍の影響により、議事内容の送付や各メンバーより書面にて意見・提案及び了承を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を利用し、事業所の実情や、取組を伝え、皆様の意見を聞き、協力関係を築くよう、取り組んでいる。	市職員とは運営推進会議出席時の意見交換や運営上の疑問点などがあつた際には相談するほか、その時に解決しないような場合には持ち帰って後日対応してもらおうなど、相談できる関係性を築いている。現在、コロナ禍の影響により、市等が開催する研修会への参加は難しい状況であるが、「さくらの里施設内研修」を行い、介護の質が低下しないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び、すべての職員が、正しく理解しており運営推進会議でも、毎回身体拘束委員会の話し合いをし、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束を必要とする方はいない。以前、入居者の安全を考慮し、家族同意のもと体幹ベルトを使用したことがあったが、拘束解除に向けて職員間で継続的に話し合い、低床ベッドへの変更や職員がいつでも対応できるよう居室の位置を変更するなど工夫したことで、身体拘束をしないケアの実践へと繋げている。ホームでは毎月「身体拘束廃止推進委員会」を開催し職員間で確認するとともに、新人職員には優先的に外部研修へ参加できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内にて、職員会議の時に話し合い、言葉使い、態度、表情等にも、注意を払い防止に努めている。コロナ感染症により、研修は、中止となる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に、成年後見人制度を利用されていた入居者の方が、いらしたので、学ぶ機会があり、それらを活用できるように、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所された日に、家族の方には、十分な説明をし、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には、面会時に、意見・要望等を聞いている。入居者の方には、いつでも話せる機会を設け、それらを、運営に反映させている。	ホーム近隣に住まう家族は頻繁に訪問しており、その際に意見や要望等を聴くようにしている。遠方にいる家族については電話を通じて意向を確認するほか、月に一度の便りや領収書を送付する際に入居者の様子を伝えている。現在、コロナ禍の状況にあるため、入居者との面会は制限している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り、職員会議を利用して、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員からホームに対する意見やアイデアが出やすい雰囲気づくりを心掛けており、必要に応じて面談を行いながら意見を聴くよう努めている。職員の意見やアイデアは必要に応じて申し送りノートに残し、特に注意する点は特記事項として記録し分かりやすく工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の、勤務状況を把握し、努力や実績を踏まえ、各自が、向上心を持って、働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質が、施設の質という観点から、ベテランの職員から学び、働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の運営推進会議に参加し、当ホームの推進会議にも参加して頂いている。相互訪問等の活動を通じて、質の、向上を目指している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人・家族の方と話し合いの場を設け、困っている事・不安な事等をたずね、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人・家族の方と話し合いの場を設けて、困っている事・不安な事などをたずね、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の、話し合いの場で、把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には、出来る事・得意な事は、して頂き、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族方にも、ホームの行事に参加して頂き、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ感染症により、2月26日より面会制限をさせて頂いているので、電話での会話で、関係が途切れ無い様に支援している。	ホームでは入居時に本人の情報を収集し、日々の支援に活かすよう努めている。入居者の知人が訪問した際にはリビングや居室で会話できるよう配慮している。現在、コロナ禍の状況にあるため面会はできるだけ自粛してもらっているが、ホーム玄関での短時間の面会や電話で対応するなど、入居者の馴染みの関係が継続できるよう努めている。理美容の支援については職員が入居者の希望に沿って対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員平等をモットーとし、1人ひとりが孤立せずに、楽しく生活出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が、終了しても、月1回面会に行き、これまでの関係性を大切にしている。家族の方の訪問もあり、運営推進会議にも、参加して頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望には、違いはあるが、本人本位に検討している。	把握した入居者本人の思いや希望、生活歴、暮らし方の意向をもとに、全職員で入居者の状態について話し合い情報を共有している。入居後、日々の生活の中から徐々に増えてくる本人の思いや希望に気付くことが多くあることを踏まえ、本人の視点に立ちながら否定せず気持ちに寄り添い、本人らしい生活が送れるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に、1番時間をかけて、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りで、細かい報告があり、職員全員が、入居者の方の現状を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に必要な関係者と話し合い、意見を出し合い、介護計画を作成している。	計画作成担当者であるケアマネジャーが中心となって職員と話し合い、介護記録から情報を得ながら介護計画を立案している。介護計画は家族訪問時に説明するほか、遠方の家族については電話にて要望等を聴いている。また、定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人ひとりが、ケアの実践・結果・気づきを、個別に記録し、情報を共有しながら、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況をふまえ、その時々生まれるニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の資源以外にも、海や山といった自然を、資源ととらえ、ドライブ・花見等で、楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	坂本内科の関本医師に、往診をお願いし、点滴等をして頂き、適切な医療を受けられるように、支援している。	ホームでは連携する医療機関より月1回の往診を受けるほか、入居者の急な体調不良の際にも指示を受けられる体制を整えている。歯科については通院しているが、入居者の体調等に応じて往診での対応も可能である。遠方の専門医療機関へ受診する場合は職員が家族とともに同行することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、不在の場合でも電話で連絡を取り、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との関係づくりは、十分に行っているが、入退院に関しては、病院側の指示に、従っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合における指針を説明しており、病院と連携しながら支援している。	入居時にホームでの看取りの方針を説明し、家族の希望を聴取し、同意を得ている。”終の棲家”として最期まで支援してもらうことを希望する家族もいることから、主治医及び看護師と連携を図り、家族への説明、職員の話し合いと緩和ケアに関する研修を行い、入居者の「穏やかに過ごしたい」との意思を尊重し支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は応急手当や、初期対応できる実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に対しては、全職員が訓練を通じて、十分な対応力を身に付けている。自然災害の訓練も、地域の消防団の方にも参加して頂き行っている。	消防訓練には地元消防団が参加することもあり、有事の際に地域の方から協力が得られる体制を築いている。また、前年度は地震や台風等の自然災害に対する訓練も実施し、防災への職員の意識を高めている。更に、災害時の避難後に入居者の情報が確認しやすいよう入居者の首から下げる名札を用意しているほか、現在、手づくりで入居者の防災頭巾を作製する予定としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念にその人がその人らしく掲げており、人格を尊重し対応している。	職員は接遇に関する研修会に参加し、職員の言葉遣いが入居者に対する支援の質の良し悪しへと繋がることを認識している。また、入居者が人生の先輩であることを意識し、方言を使用しながらも誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いを使用するよう留意し、必要に応じて職員同士でも注意し合うようにしている。	友達口調や命令口調、否定語など職員が無意識に使っていることもあり、管理者は課題として認識し、日頃から職員への注意を促している。引き続き職員同士で注意し合い、接遇に関する勉強会に参加して研鑽を重ねるなど、「言葉遣い」が介護職の質に繋がることを改めて意識し、より質の高い支援に繋げて行くことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当施設の行動指針の一つである「入居者様の権利」6項目を基本として働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、一日一回笑顔で過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問福祉美容師さんに来て頂き、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「美味しい食事」「楽しい食事」が施設の基本であり、バイキング型式の食事、お弁当等にて楽しんで頂いている。	ホームではドライブを兼ねて近隣の宿泊施設への食事やうどん店での外食などの機会を設けていたが、現在はコロナ禍の影響で難しい状況である。職員はこうした状況の中でも入居者に楽しんでもらえるよう月2回のバイキング料理や弁当を提供するなど工夫している。また、食事前の嚥下体操や嚥下・咀嚼能力に合わせた刻み食やトロミ食の提供に加え、食事介助が必要な方には職員が支援しながら食事が楽しくなるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の旬な食材を利用し、栄養のバランスを考え提供している。 水分摂取は、直接摂取・間接摂取で計算し確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアをして頂き、出来ない方は職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、ポータブルトイレ・トイレにて排泄できるように支援している。	ホームでは排泄チェック表を用いて入居者毎に排泄パターンを把握し、失敗が少ない支援に努めている。入居者によっては夜間リハビリパンツやオムツを使用しており、日中は普通の下着で過ごす方もいる。排泄の失敗があった場合、職員は入居者の羞恥心や自尊心を傷付けない対応を心掛けている。便秘については食事の内容や医師からの処方薬で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取して頂き、かかりつけ医にお薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日にはあるが、本人が希望されれば、シャワー浴を提供している。	ホームでは週2回入浴日を設定し支援しており、浴室は明るくゆったりと入浴できるよう整備している。また、ホーム2階にはシャワー室を新たに設けている。職員は時季によって“ゆず湯”や“しょうぶ湯”を楽しめるよう工夫しており、入浴後には保湿剤にて皮膚疾患の予防に努めている。	現在、週2回(火曜日と土曜日)の入浴支援を行っているが、あらためて入居者個々の希望に沿った入浴支援ができていないかを確認することが望まれる。職員体制で厳しい面があると思われるが、例えば夏場は木曜日を入浴予備日と設定し柔軟に対応するなど、検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や温度管理に注意し、気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、副作用や容量について理解し、医師の指示を仰ぎながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調・気持ちに合わせ、ドライブ等で気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の流行により、外食はできなかったが、玄関先での日光浴・ドライブ等で楽しんで頂いている。	現在、コロナ禍の影響により遠方への外出は難しい状況にあるが、近隣への散歩や病院からの帰りに買い物をするなどし、入居者の気分転換を図っている。天気が良い日にはホームの外で日光浴をして寛いだり、ホームで飼っている犬と触れ合い入居者の癒しに繋げたりするなど工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設が預かって管理しており、本人様が希望される時には、お金を所持し、買い物に行かれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、自由に無料で使って頂いている。 手紙は宛名だけ職員が書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	創作物をホールの壁に飾り、共有空間を居心地良く過ごせるように工夫している。	ホーム共用空間には季節の飾り物や、新型コロナウイルス退散を願いアマビエ(疫病退散)の絵に入居者が色を塗って壁に飾っている。2階に通じる階段には電動昇降機を設置し、入居者が2階へ上る際に利用することができるようにしている。職員は常に気配りや目配りをするとともに清潔保持に努め、入居者が安心できるような共用空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを置き、入居者様同士が楽しく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたタンス等を持ち込まれ、各居室にテレビの配線も用意している。	居室はベッドのみ備え付けとなっており、入居者は自宅で使用していた馴染みの物を持参している。中には仏壇や位牌を持参する方もいる。以前は居室に造花を飾っていたが、現在は職員が自宅から持参した生花を飾っている。冬場の乾燥した時季には湿らせたタオルを設置し乾燥対策を行っている。入居者と家族、職員が協力し、その人らしい居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・トイレに手すりを設置して、自立した生活が送れるように工夫している。		